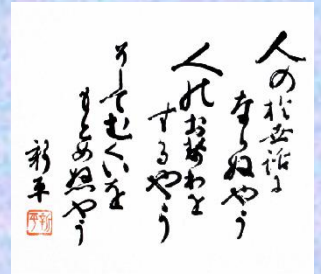




後藤新平記念館通信

奥州市立後藤新平記念館

R7 年 8 月号



【自治三訣】

新平小検定

～来館者、受検者共に増加～



夏休み企画として 14 回を数える「新平小検定」に今回も市内の小学 5・6 年生が多数チャレンジしました。期間中は友達と一緒に来館し、協力しながら検定にチャレンジする姿、家族と来館し、親子で検定にチャレンジする姿が見られました。

今回の検定は、来館しての受検者が 23 名増（昨年度比 15% 増）の 178 名、学校提出も含めた総受検者数は 99 名増（昨年度比 50% 増）の 297 名となりました。ご協力いただいたご家族の皆様、小学校の先生方ありがとうございました。

今回の検定に出題された問題の中から 3 問紹介します。

- ① 1881 年、24 歳で愛知県医学校長兼愛知病院長となった後藤新平は、刀で襲われ負傷した政治家の治療をしました。自由党総理として有名なこの政治家は誰でしょう。
- ② 1890 年、32 歳の後藤新平はドイツに留学し、世界最高レベルのコッホ研究室で学びました。この時同じくコッホ研究室にいた有名な細菌学者は誰でしょう。
- ③ 今年は放送 100 年の年になります。放送開始前年の 1924 年、67 歳の後藤新平は東京放送局の初代総裁となりました。日本初の公共放送を行った東京放送局は現在の何でしょう。



※実際の問題には選択肢がありますが今回はのぞいてあります。解答は欄外にあります。

【学芸調査員の常設展示より一品紹介】

新平さんのお宝 御下賜品『印籠』



「この門処が目に入らぬか」でお馴染みの印籠ですが、本来は三段から五段くらいに分割出来る小型の入れ物として着物の帯に引つ掛け腰からぶら下げて持ち歩いていました。蒔絵には「鳥居に飛鳥」「傘翁おきな」が彫り込まれています。功績により皇室や宮家から賜った御下賜（ごかし）品であるこの印籠に、医者でありながらよくお腹をこわしていた新平さん（「新平日記参照」）は、吉野の和漢胃腸薬・蛇羅尼助丸（ダラニスエ）を入れ、常に携帯愛用していました。

（淑）